

平成 25 年 3 月 10 日 (日) 実施

第 32 回 建設業経理事務士検定試験 3 級 解説

〔第 1 問〕

- (1) 割引発行の社債は買入価額で処理する。
- (2) 約束手形の裏書譲渡は、受取手形を減少させる処理をする。
- (3) 補修代金のうち、改良に該当する分は資本的支出といい、対象固定資産を増額する。残りは修繕のための支出で、これは修繕維持費である。
- (4) 旅費の概算払いは仮払金勘定で処理する。
- (5) 決算までに発生原因が不明な現金過不足は、貸方残高の場合は雑収入に振り替える。

〔第 2 問〕

- ① D 工事の労務費当期発生分は、労務費合計から各工事の労務費を引いて

$$1,233,000 - (96,000 + 213,000) - (72,000 + 391,000) - 76,000 = 385,000$$
 D 工事の合計額は

$$460,000 + 385,000 + 204,000 + 167,000 = 1,216,000$$
- ② B 工事の材料費前期繰越分は、B 工事合計から労務費、外注費、経費を引いて

$$247,000 - (72,000 + 56,000 + 35,000) = 84,000$$
- ③ A 工事の材料費前期繰越分は、材料費合計から各工事の材料費を引いて

$$1,537,000 - 284,000 - (84,000 + 486,000) - 98,000 - 460,000 = 125,000$$
 A 工事の経費当期発生分は

$$802,000 - (284,000 + 213,000 + 188,000) = 117,000$$
- ④ C 工事の経費当期発生分は、経費合計から各工事の経費を引いて

$$626,000 - (68,000 + 117,000) - (35,000 + 198,000) - 167,000 = 41,000$$
 C 工事の合計額は

$$98,000 + 76,000 + 55,000 + 41,000 = 270,000$$
- ⑤ 未成工事支出金の前期繰越 ¥625,000 は A 工事、B 工事の前期繰越分の合計額であるから、A 工事の前期繰越分は

$$625,000 - 247,000 = 378,000$$
 A 工事の外注費前期繰越分は

$$378,000 - (125,000 + 96,000 + 68,000) = 89,000$$
- ⑥ 外注費の当期発生合計額は、未成工事支出金勘定より ¥664,000 であるから、各工事の当期発生額より、B 工事の外注費当期発生分は

$$664,000 - 188,000 - 55,000 - 204,000 = 217,000$$
 B 工事の当期発生分合計額は

$$486,000 + 391,000 + 217,000 + 198,000 = 1,292,000$$
- ⑦ 外注費の合計および原価合計を計算する。

工事原価計算表

摘要	A工事		B工事		C工事	D工事	合計
	前期繰越	当期発生	前期繰越	当期発生	当期発生	当期発生	
材料費	125,000	284,000	84,000	486,000	98,000	460,000	1,537,000
労務費	96,000	213,000	72,000	391,000	76,000	385,000	1,233,000
外注費	89,000	188,000	56,000	217,000	55,000	204,000	809,000
経費	68,000	117,000	35,000	198,000	41,000	167,000	626,000
合計	378,000	802,000	247,000	1,292,000	270,000	1,216,000	4,205,000
備考	完成		完成		未完成	完成	

未成工事支出金

前期繰越	625,000	完成工事高	3,935,000
材料費	1,328,000	次期繰越	270,000
労務費	1,065,000		
外注費	664,000		
経費	523,000		
	<u>4,205,000</u>		<u>4,205,000</u>

I. 材料費 $(125,000 + 284,000) + (84,000 + 486,000) + 460,000 = 1,439,000$

II. 労務費 $(96,000 + 213,000) + (72,000 + 391,000) + 385,000 = 1,157,000$

III. 外注費 $(89,000 + 188,000) + (56,000 + 217,000) + 204,000 = 754,000$

IV. 経費 $(68,000 + 117,000) + (35,000 + 198,000) + 167,000 = 585,000$

【第3問】

21日	(借) 材料	198,000	(貸) 工事未払金	198,000
22日	(借) 現金	400,000	(貸) 未成工事受入金	400,000
23日	(借) 外注費	264,000	(貸) 工事未払金	264,000
24日	(借) 材料費	67,000	(貸) 材料	67,000
25日	(借) 労務費	180,000	(貸) 現金	180,000
"	(借) 給料	160,000	(貸) 現金	160,000
26日	(借) 当座預金	460,000	(貸) 受取手形	460,000
27日	(借) 現金	100,000	(貸) 当座預金	100,000
28日	(借) 支払家賃	45,000	(貸) 当座預金	45,000
29日	(借) 経費	24,000	(貸) 現金	24,000
30日	(借) 支払手形	290,000	(貸) 当座預金	290,000
"	(借) 当座預金	320,000	(貸) 完成工事未収入金	320,000
31日	(借) 借入金	300,000	(貸) 当座預金	312,000
	支払利息	12,000		
"	(借) 未成工事受入金	300,000	(貸) 完成工事高	900,000
	受取手形	600,000		

※21日の「諸口」は10月20日までの諸取引を表します。

現 金		金	
21 諸 口	974,000	21 諸 口	736,000
22 未成工事受入金	400,000	25 労 務 費	180,000
27 当座預金	100,000	" 給 料	160,000
		29 経 費	24,000
当 座 預 金			
21 諸 口	4,260,000	21 諸 口	2,360,000
26 受取手形	460,000	27 現 金	100,000
30 完成工事未収入金	320,000	28 支払家賃	45,000
		30 支払手形	290,000
		31 諸 口	312,000
受 取 手 形			
21 諸 口	2,310,000	21 諸 口	890,000
31 完成工事高	600,000	26 当座預金	460,000
完成工事未収入金			
21 諸 口	6,740,000	21 諸 口	4,680,000
		30 当座預金	320,000
材 料			
21 諸 口	843,000	21 諸 口	485,000
" 工事未払金	198,000	24 材料費	67,000
機 械 装 置			
21 諸 口	3,100,000		
備 品			
21 諸 口	900,000		
支 払 手 形			
21 諸 口	660,000	21 諸 口	4,980,000
30 当座預金	290,000		
工 事 未 払 金			
21 諸 口	1,800,000	21 諸 口	2,997,000
		" 材 料	198,000
		23 外注費	264,000
借 入 金			
21 諸 口	290,000	21 諸 口	1,780,000
31 当座預金	300,000		
未成工事受入金			
21 諸 口	1,580,000	21 諸 口	3,520,000
31 完成工事高	300,000	22 現 金	400,000
資 本 金			
		21 諸 口	2,000,000

完 成 工 事 高			
		21 諸 口	7,970,000
		31 諸 口	900,000
材 料 費			
21 諸 口	4,120,000		
24 材 料	67,000		
労 務 費			
21 諸 口	2,140,000		
25 現 金	180,000		
外 注 費			
21 諸 口	981,000		
23 工事未払金	264,000		
経 費			
21 諸 口	652,000		
29 現 金	24,000		
給 料			
21 諸 口	487,000		
25 現 金	160,000		
支 払 家 賃			
21 諸 口	543,000		
28 当座預金	45,000		
支 払 利 息			
21 諸 口	18,000		
31 当座預金	12,000		

〔第4問〕

- 現金勘定で処理される通貨代用証券には、他人振出小切手、郵便為替証書、支払期限の到来した公社債の利札または株式配当金領収証などがある。
- 減価償却総額は、取得原価から残存価額を引いた金額である。
- 建設業における営業収益を代表する勘定科目は完成工事高である。

〔第5問〕

(1) 貸倒引当金

受取手形と完成工事未収入金の残高は $\text{¥}198,000 + \text{¥}425,000 = \text{¥}623,000$

$$\text{¥}623,000 \times 2\% = \text{¥}12,460$$

差額補充法で処理するので繰入額は $\text{¥}12,460 - \text{¥}3,760 = \text{¥}8,700$

(借) 貸倒引当金繰入額	8,700	(貸) 貸倒引当金	8,700
--------------	-------	-----------	-------

(2) 有価証券の評価

帳簿価額は $\text{¥}169,000$ なので、評価損は $\text{¥}169,000 - \text{¥}156,400 = \text{¥}12,600$ である。

(借) 有価証券評価損	12,600	(貸) 有価証券	12,600
-------------	--------	----------	--------

(3) 減価償却

工事用機械装置の減価償却費は工事原価であるので、経費として処理する。

一般管理用備品は減価償却費として処理する。

(借) 経費	32,000	(貸) 機械装置原価償却累計額	32,000
減価償却費	6,000	備品減価償却累計額	6,000

(4) 収益の繰延べ

(借) 受取利息	1,500	(貸) 前受利息	3,000
----------	-------	----------	-------

(5) 工事原価を未成工事支出金へ振り替える。

※決算整理事項(3)の経費も含めることに注意

(借) 未成工事支出金	1,714,000	(貸) 材料費	665,000
		労務費	519,000
		外注費	314,000
		経費	216,000

未成工事支出金のうち当期完成成分を完成工事原価に振り替える。

未成工事支出金の時期繰越額は $\text{¥}194,000$ なので、完成工事原価は

$$\text{¥}264,000 + \text{¥}1,714,000 - \text{¥}194,000 = \text{¥}1,784,000$$

(借) 完成工事原価	1,784,000	(貸) 未成工事支出金	1,784,000
------------	-----------	-------------	-----------

未成工事支出金

前期繰越	264,000	完成工事原価	1,784,000
当期発生	1,714,000	次期繰越	194,000